

## 第1回千里浜海岸保全対策検討委員会 講事要旨

1. 日 時：平成17年8月30日（火）14時15分～16時00分
2. 場 所：休暇村「能登千里浜」
3. 出席者：石田委員、川村委員、玉井委員、中村委員、池本委員、塚脇委員、  
中平委員、山本委員（代理）、本吉委員、中江委員
4. 議題
  - (1) 講事公開の可否について
  - (2) 千里浜海岸の保全と活用について
    - 1) 主な検討項目
    - 2) 千里浜海岸の現況・課題等
  - (3) 討議
  - (4) 今後のスケジュールについて
5. 議事概要
  - (1) 石川県土木部小間井技監から開催の挨拶が行われた。
  - (2) 事務局から委員会の設立趣意および設置要綱について説明が行われた。
  - (3) 委員の互選の結果、石田氏が委員長に選出された。
  - (4) 委員長から講事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。
  - (5) 事務局から「千里浜の保全と活用（主な検討項目、千里浜海岸の現況・課題等）」について説明が行われた。各委員からの主な意見・質問は次項以降の通り。
  - (6) 事務局から「今後のスケジュール」として、千里浜海岸の保全と活用については、技術的にも難しいということで、2～3年程度かかると見込んでいる旨、説明が行われた。
  - (7) 事務局から閉会の挨拶が行われた。

討 議 者	討 議 項 目	小 項 目	内 容
石田委員長	千里浜の形成	千里浜形成の概説	手取川から出た砂のうち、細かい砂は沖まで流れ出し、対馬海流によって北上する。滝崎や能登半島に当たったところで、流速が弱まったり、逆向きにターンしたりして、千里浜の位置で砂がたまりやすい。 岸側の浅いところになると、沿岸流が強く、滝崎周辺の地形により、波が斜め方向から入射しやすく、南下する方向に砂は動きやすい。
石田委員長 玉井委員 塚脇委員		大スケールで見た千里浜の形成	対馬海流が現在の形で流れるようになったのが、1000～2000年前と思われるので、千里浜形成の基本として、日本海形成の過程を共通認識として、整理したほうがよい。 過去2万年から現在までの、氷河性の海面の上下の中で、どのように千里浜や砂丘が形成されてきたのかを整理する。海面変化の年代や海水準の高さについては、提示資料の修正が必要である。 大スケールでの形成過程を共通認識として持った上で、現代の中期、短期の海岸線の変化を議論していきたい。
玉井委員	最近の地形変化、海岸侵食	地形変化	断面的に地形変化が把握できる資料を整理してほしい。
石田委員長		侵食要因	加越沿岸の侵食原因は、大方は砂利採取の影響である。 金沢港の影響については、砂が一方向だけに動いているわけでないので、一概に影響がどれほどか見積もるのは難しい。
玉井委員			侵食は1つの要因で決まっているような簡単なことではない。今後の侵食、地形変化の方向を捉えるような調査、議論を進めるべき。
石田委員長 玉井委員			波浪、潮位に関して、千里浜ないし加越沿岸の特徴を掴むために、日本海沿岸各地や太平洋岸と比べてみたいので、データを整理してほしい。
塚脇委員			潮位の変動のデータがあるが、変化が早過ぎるように思う。地盤が下がっていることも考えられる。
中平委員			ダムの堆積土砂、砂利採取の実態、港湾の浚渫実績や堆砂量などのデータを整理して、海岸線の変化と比較してみたい。
中江委員			個人的な興味ですが、以前オーストラリアのレインボービーチという海岸を車で何十キロと走ったことがあります。千里浜との対比という意味で、このようなところでも海岸後退、海岸侵食があるのか、機会があれば調べてほしい。

討 議 者	討 議 項 目	小 項 目	内 容
川村委員	底質特性	底質	千里浜の砂は、均一の細かい砂であり、これが水締めで良く締まる要因と思われる。土質工学的には、ちょっと調べればより明確になるだろう。 海底～汀線～砂丘といった広い範囲での底質のデータを集めて、整理してほしい。 季節的な海底地形の変化があるそうだが、それがどの範囲までなのか知りたい。
玉井委員		海底バー	海底バーの変化に関するデータも整理してほしい。
池本委員	海岸環境	水質	海水浴客が減少してきた理由として、海の魅力が余りなくなっているのかもしれない。 水質に関して言えば、平均的には COD は十分な値を維持していても、季節的にはどうなのか、COD 以外の項目ではどうなのかといったデータも示してほしい。
石田委員			千里浜には海岸線まで暗渠があって排水が流れている。海水浴場として、何とか水はきれいに保ってほしい。
池本委員		漂着ゴミ	漂着ゴミの問題も環境面では重要であり、ゴミの種別の内訳のようなデータがあれば、見せてほしい。
中村委員		環境全般	海岸に住む生物や自然を実感できてこそ魅力ある海岸になると思う。時期的なものもあると思うが、現地を見た限りでは荒れた印象が強かった。
	生態環境	海底～波打ち際～砂浜～砂丘と環境が移り変わる中で、それぞれのゾーンに固有の生物がいるわけだが、その生物がどうなっているのか、資料を調査してみたり、専門家に見てもらったりしたらどうか。 海岸林の松枯れも深刻な問題であり、データがあると思うので、調査してみようことを勧める。	
中江委員	現行の養浜について		平成 17 年度も今までの養浜は行うのか。
事務局(県)			今まで通りの県単費による 5000～7000m <sup>3</sup> の養浜は実施する予定である。羽咋川河口の土砂を用いるが、量などについては、現地の状況を総合的に見て対応したい。